

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4271200547		
法人名	社会福祉法人 もみの木会		
事業所名	グループホーム もみの木の家		
所在地	長崎県東彼杵郡東彼杵町里郷1804の1		
自己評価作成日	平成 22 年 12 月 14 日	評価結果市町村受理日	平成 23 年 3 月 1日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>職員間のチームワークを良くし利用者のよりよいケアにつなげるように努力しており、利用者と職員との共同作業で出来る限りホームでの使用物を手作りで行うことで、落ち着いた雰囲気作り力を入れ、毎日の生活が笑顔で暮らせるように支援している</p>
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成23年 2月 8日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>今年度より2ユニットから1ユニットへ移行し新たなスタートをきった。統合されたことによる環境の変化からくる利用者への影響に対しては昨年度より配慮していたが、室内の設備、新しい集団の人間関係、今までと異なる生活の中での決まり事など、最初は戸惑いもみられた。管理者、職員は、利用者の不安に対して言葉かけと説明を重ね、気持ちを共有し、傍らに時間を何より優先し「心身共に寄り添う支援」をもって職員一丸となって対処し、現在は落ち着いた穏やかな暮らしが窺える。新任の管理者に対して施設長がかけた「一人で悩まないで」という言葉は、管理者から職員へ「なんでも相談して」という投げかけとなり、このチームワークが利用者の「笑顔」を支えている。母体法人のバックアップと地域の理解と協力が更に事業所を支えており、信頼と安心に包まれた事業所である。</p>
---

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「笑顔」を基本に、ホーム独自の「自然にふれながらゆっくりとあたたかくその人らしく暮らせるように支援します」の理念で、家族、地域とのつながりを大切に安心できるように信頼関係に努めている	環境の変化に配慮し、年度当初に「そばに寄り添いましょう」と支援目標を掲げた。業務優先とならないように、理念にも沿って「ゆっくりとあたたかく」利用者の笑顔を引き出すコミュニケーションに努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元がお茶どころであり、毎年開催される「新茶まつり」に出掛けたり、運動会では老人会の方と一緒にゲーム等に参加したりして、地域行事への参加を通じて地域の人との交流が途絶えないように心掛けている	地域行事に参加された利用者は、顔馴染みの地元の方と会話し懐かしんでおられた。管理者は地域住民でもある職員と老人会の会合に出席し、事業所の紹介と相談窓口としての利用を伝え、交流のきっかけ作りを行った。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会や老人会に出向いて認知症の方の説明をし理解を得ている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度より2か月に1回開催しており、開催案内を全家族に会議の案内を送付しており、数名の家族が参加されている	二ヶ月に一回の開催で順調に推移しており、今年度より事業所内での会議としたことで支援の様子を身近に感じて頂きながら、活発な意見交換がなされている。家族参加も増え、家族の意見聴取の良い機会ともなった。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡協議会に参加したり、運営推進委員に地域包括支援センター、介護保険課から参加されている	介護保険課からの呼びかけで東彼杵地区の4事業所による交流会が立ち上げられた。管理者、計画作成担当者、介護員と三つに分かれて会合を開き、有益な情報交換と交流が行政の仲立ちにより出来るようになった。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていないが、言葉による拘束にならないように、申し送り時や会議などで終始徹底している	強い語調や言葉使いによって利用者の行動を縛ってはいないかと、管理者は常に自省、自戒をしながら職員へ投げかけ、注意をするように心がけている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉による虐待にならないように地元の方言を交えながら、思いやりのある言葉掛けになるように日頃から十分に心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者が1名おられ、毎月1回市の安心センターより来訪されている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の記載内容を確実に説明を行い、理解、納得してもらっている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を定期的開催し、ご家族の参加もあり、意見・要望を聞いている。苦情受付の処理体制、手順方法を作成し速やかに対応できるようにしている	利用者は管理者の役職、立場を理解され、管理者の夜勤時に個々に日常感じている意見や悩み、苦情を伝えられる。敬老会の折には居室担当職員と家族の話し合いの機会を作り、意見、要望聴取に努めた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回連絡会議を職員と上司(3名)で行っており、意見、要望を聞く機会を設けている	施設長、次長、管理者、日勤職員が参加する会議を、月に2回開催しており、職員も意見、要望は発言出来ている。施設長は職員にも運営に関わって欲しいとの気持ちから、常に現場の声に傾聴の姿勢がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月2回の会議で意見を聞く機会を設ける以外、上司が時間がある時に会議の席ではなく、気軽に話が出来る環境を整えている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は全ての職員が受けれる機会を計画し、スキルアップにつなげている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度より毎月1回、東彼杵町グループホーム交流会を設け勉強会等を通じて、サービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方に面会に出向いたり、ホームへ見学に来ていただいたりして、利用者・家族の思いを十分に聞き良い関係作りに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を数回行い、現在の状況を把握し理解を深めるように努力している		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の思いを確認し、職員とも十分な話し合いをし、出来る事は直ぐに対応している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を送る中で、雑巾やゴミ箱を一緒に作ったり、洗濯物の干し方や郷土料理を教えていただいて、共に生活が送れるように気がけている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のおたよりで近況報告したり、ご家族へ行事参加を積極的にお願ひし、楽しく過ごす時間を作るようにしている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙を出されたり、自宅の近所の方が来訪されたり、また地域の運動会では知人と一緒に競技に参加されたりしている	利用者が帰宅される際は、家族へ心身の状態を伝え介護のフォローをしている。「家に帰りたい」という利用者の思いを代弁出来るよう、家族へは年末年始の連絡など、帰宅についてやんわりと働きかけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、役割や分担を考慮したり、外気浴やゲームを行い、コミュニケーションが取れるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も外で会った時等ご家族も職員も気軽に声掛けし近況を尋ねている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを聞き取ったり、ご家族への要望等を聞き取ったり、日常生活の中で利用者の思いを察するように努めている	入浴や排泄等、1対1の支援の場で思いや意向を伺うことは多い。得られた情報は申し送り時などに職員間で共有に努めている。意思疎通の困難な方には働きかけを多くし、反応(発語、表情)で意向を汲み取っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活が笑顔で暮らせるように家族へ聞き取りをしたり、利用者の方にも聞き取りを行ったりし、職員間でも情報を把握していくことに努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で個々の暮らし方や力量に合わせて、職員同士情報を共有しケア出来るように努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がアセスメントで利用者や家族の意向を聞き、全職員で計画を行い、利用者・家族の意向に反映出来るように努めている	精神的安定と現状維持をプラン作成の主眼として、具体的なサービス内容を盛り込んでいる。今年は効率化によるケア会議の見直しにより変更があり、担当職員と計画作成担当者が中心に作成している。	現場の職員のサービス内容の把握を考慮し、チームによるプラン作成の観点からも、ケア会議における職員全員による確認、決定という従来のプロセスの再検討を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、健康チェックを個別に記録し、毎朝申し送り時に些細なことでも職員間で情報を共有化している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診日以外でも身体的な違和感の訴え時は直ぐに受診したり、往診をしてもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元消防分団の協力で避難訓練を行ったり、区長さんが来訪されたりして連携するように努めている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医で2週間の1回往診を行っている。それ以外でも受診の付添いを行っている	現在の入居者全員が協力医療機関がかかりつけ医であり、往診を始め夜間、緊急時の対応も安心が得られている。他科受診は支援を行っており、家族へは受診結果を状態に応じ、電話や面会時に報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の看護職やかかりつけ医の看護師に相談している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、上司を含め医療機関と話し合いの場を設け、情報交換を密に取れるように努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について家族には必要に応じて説明し理解を得ており、状態の変化により、家族、上司、医師、職員間でも十分な話し合いをし、方針を決めている	家族の「ホームで過ごさせたい」との希望があり、検討を重ねながら重度化への対応を始めている。医療的に早期対応を心がけ、職員のチームワークを大切に取り組んでいる。延命措置を含む医療対応がない場合の看取りについても考慮の必要性を感じている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導の元、年3回心肺蘇生法など訓練を実践している。応急処置マニュアルも準備している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と地元消防分団の指導で年2回避難訓練、消火器の使い方の訓練を行っている	災害対策は法人としても真摯に取り組んできており、運営推進会議でも意見、提案が地域住民から寄せられている。会議では居室窓枠のフェンスが、火災時の脱出に関して問われており、防災、防犯の両観点から検討中の案件となっている。	解決は容易ではないが、利用者の身体状況を考慮した災害時の避難、救助の点を、意見を頂いた運営推進会議において再度検討され最善策をもって早急に対応されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った状況に応じ言葉を掛け、トイレ誘導や失禁された際の声掛けには特に配慮している	利用者のプライバシー保護の取り組みに関するマニュアルを作成した。利用者間の人間関係に配慮が必要と感じ、職員は聞き役に徹し個々の思いを受け止めて集団生活の中での利用者の人格の尊重に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望が自由に選択し、生活出来るような雰囲気作りを行い、職員側の押し付けにならないように努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、利用者のペースで過ごしていただけるように可能なかぎり努めている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の負担を考慮し定期的に地元の美容室に来館してもらっている。外出、行事、病院受診、入浴後の着替えは利用者で決められたり、職員と選んだりされている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者からメニューの要望があった際は直ぐに取り入れたり、食事前には必ず献立の説明を行い、職員と利用者の方と同じテーブルで楽しく話をしながら食している	会話と笑顔の絶えない和やかな食卓の席は、食事が楽しいものとなるよう介助の状態、利用者の人間関係に配慮している。手作りの布製のエプロンは介護用のイメージを払拭する細やかな職員の心遣いが窺える。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士に2か月に1回献立のチェックを行ってもらい、バランスの取れた食事を提供出来るように努めている。利用者の状態に合わせ食事量、お粥などの対応をしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアをしており、出来ない方はスポンジブラシなど使用し介助しながら口腔内の清潔保持に努めている。往診訪問歯科にきてもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り布パンツを使用し、定期的にトイレ誘導や利用者の動きを見逃すことなくトイレ誘導に努めている	日中は出来る限りトイレでの排泄を行い、おむつを減らしてパットへ移行、布パンツを使用することをもって、自立支援に努めている。夜間は、安全と安眠にも配慮してポータブルトイレを一部使用している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別健康チェック表にて排便確認や毎日、牛乳を取り入れたり、食材に繊維質を多く取り入れたり、適度な運動で身体をう動かすように努めている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回と決めてはいるが、状況に応じて、シャワー浴など対応をしている。入浴順番でトラブルが起きないように配慮している	利用者が湯船に浸かれている時間は、見守りの職員と1対1のコミュニケーションをとることができ、リラックスした雰囲気の中で日頃の思いを伺うことができている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促すことで生活のリズムを整えるようにし、午睡も夜間不眠に繋がらない様に短時間で行っている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて確認するようしており、誤薬が起きないように徹底して管理している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の力量に合わせて裁縫や手作業等を行ってもらい、役割が出来る事で満足感や気分転換をしてもらっている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日には個別対応にて希望を聞き外出を行っている。ドライブも利用者の希望に沿うような場所に出かけている。また家族と一緒に外出や温泉に行かれたりされている	利用者の要望に沿って買い物など個別支援で対応している。風光明媚な近くの公園へ散歩に行かれ外気に触れられたり、法人内の車椅子対応の車両で全員でドライブへ行き、季節の花を見ることを楽しみにされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所管理になっており、買い物などは立て替えになっている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いて出されたり、家族などに自由に電話連絡が取れるようにしている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じる事の出来る飾り付けや提示物を行っている。臭い、温度には特に注意して居心地良く過ごせるように努めている	カウンターで間仕切りしたキッチンが一角にある広いリビングは、利用者と職員が共同制作した布製のタペストリーが飾られ、女性らしい暖かみと季節感を感じられる。利用者の見当識に配慮し、浴室、トイレには手作りの大きめの案内板が掲げられている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事業所内数ヶ所にソファがあり、気の合った同士で談笑されたりして自由に過ごせるスペースを確保している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたタンスやテーブルなどを持参され、その品々に思い出があり大事に使用されている	フローリングの清潔に整えられた室内は、備え付けのベッド(介護用ベッドも対応)、収納に十分なクローゼットの他に、馴染みの調度品や毛布、家族から贈られた絵画や写真などがあり落ち着いた空間である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂に解りやすいように表記したり、各居室も迷われない様に名前を表記している		